

Ⅳ 施策の展開

本市の生涯学習の現状と課題、関連計画との整合を踏まえたうえで、市民が主体となって、市民と行政が協働して取組む考え方のもと、基本理念及び基本目標の実現に向け、7つの基本的な方針に基づいた施策を以下に示します。

基本方針1 人をつくり 人を育む

①市民が地域に関わるしくみづくり

- 生涯学習への参加を通じて、様々な知識・技能を持った市民が気軽に地域に関わり、活躍できるようしくみづくりを推進します。

シンポジウムでの意見

- 小さな輪から増やす方が良い。きっかけの場所が必要。
- 男性は、勤めから地域に戻ってることが課題。
- 出会いの場所を設ける。
- 第1歩が大事だと思う。

②まちづくり・地域づくりにおける人材育成

- 地域の様々な学習活動の中から、まちづくりや地域づくりの視点で活動ができる人材を育成します。



市民意識調査結果

- 「人材の育成と活用」に関して、満足度が低く、かつ重要度が高い。

③人材バンクの拡充

- まちづくりや地域づくりの視点で活動ができる人材を、総合的な人材バンクとして登録し活躍の場を広げます。

基本方針2 人と人をつなぐ

①ボランティア活動の促進

- ボランティア活動の促進を図り、様々な活動に参加できる環境の整備に努め、まちづくり・地域づくりにつなげます。

シンポジウムでの意見

- ボランティアとして参加するための、きっかけ作りをする。
- 定年になった時に、市内にどんなボランティア団体があるのか知らない。周知方法を検討してほしい。

②「学びあい」の場の充実

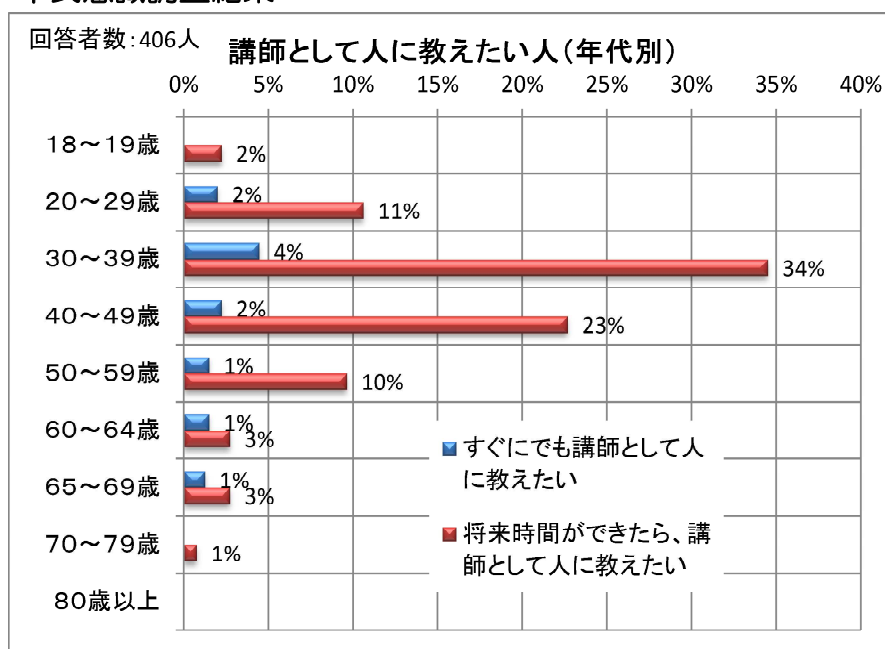
- 市民が学習成果を地域や次に学習しようとしている市民に還元し、広げていくための環境整備に努めます。



シンポジウムでの意見

- 習いたい人と教えたい人が両方いるが、その双方の情報をどうキャッチするか。

《市民意識調査結果》



③退職後世代を生涯学習へ導く

- 定年退職を迎える市民に向けた講座の実施や学習情報の提供を行います。地域への関わりが少なかった市民が、退職後に生涯学習を通じて地域へ関わることができる環境づくりを進めます。

シンポジウムでの意見

- いざ退職してみると、地域でのつながりが無いことに気が付く。普通のサラリーマンは地域に目が向いていない。
- 退職後の男性は地域とのつながりが少ない場合が多いので、生涯学習へ導くためにはまずそのつながり作りを促進することが大切。
- 人生の節目の時に、生涯学習の情報があるとよい。

④国際交流の促進

国際交流を多文化共生としてとらえ、市民・外国人市民が交流を通じ、相互理解を深める機会の充実を図ります。



市民意識調査結果

- 生涯学習に取り組んでいない人で、今後機会があれば学びたい内容は、20～40 歳代では「国際交流（外国語や外国の生活文化などを学ぶもの）」とする回答が多い。

⑤子育て支援を通じた交流の場の充実

- 子育て支援の充実を図るとともに、子育て中の親同士が自主的に交流し、つながりを持てる場の充実を図ります。



⑥団体の自主的な活動への支援及び交流促進

- 生涯学習に関わる団体が、自主的に活動できるよう支援するとともに、団体同士の交流機会の充実を図ります。

基本方針3 学びの内容を充実させる

①環境に関する学習

- 人と環境との関わりについて理解を深め、環境に配慮した暮らしを営むための学習の機会の充実を図ります。

②「文化の家」を拠点とした文化活動の環境整備

- 本市の芸術・文化活動の中核施設である「文化の家」を拠点とし、優れた芸術・文化を身近に鑑賞できる機会の充実を図ります。

また、芸術・文化の創造的な活動を促進し、活動の発表の場としての充実を図ります。更に、文化活動団体と協力し発表会を行うなど市民交流を活性化します。

「文化の家」がまちづくり・地域づくりの1つの拠点として機能することを目指します。



③長久手の資源を活かした学び

- 古戦場公園、色金山歴史公園をはじめとする史跡や愛・地球博記念公園（モリコロパーク）、トヨタ博物館、名都美術館、リニモなどの本市特有の観光交流資源を活かした学習を推進します。



④平成こども塾を拠点とした体験学習

- 市民のサポートを得ながら、自然体験や農業、ものづくり体験等を通じて、世代間・地域交流を促進し、農業や長久手の自然への理解を深め、子どもたちの生きる力を育みます。



⑤小・中学校等における芸術・文化の提供

- 小・中学校や高校、福祉施設等へ出向き、子どもたちや高齢者に対して芸術・文化に触れる機会の提供を図ります。

⑥福祉に関する知識の普及・啓発

- 福祉に関する課題について市民の意識が高まるよう、例えば認知症や孤立死、介助犬の制度などに関する知識の普及・啓発を図ります。

⑦農楽校を中心とした農業に関する学習の充実

- 多様な農業の担い手を育成するため、農楽校を中心とした農業に関する学習の充実を図るとともに、「農」に関する学習成果を地域に還元する仕組みづくりを進めます。



市民意識調査結果

- 生涯学習に取り組んでいない人で、今後機会があれば学びたい内容は、50～70 歳代では「市民農園での農業体験など」とする回答が多い。

基本方針4 スポーツ・健康づくりを進める

①総合型地域スポーツクラブの発展

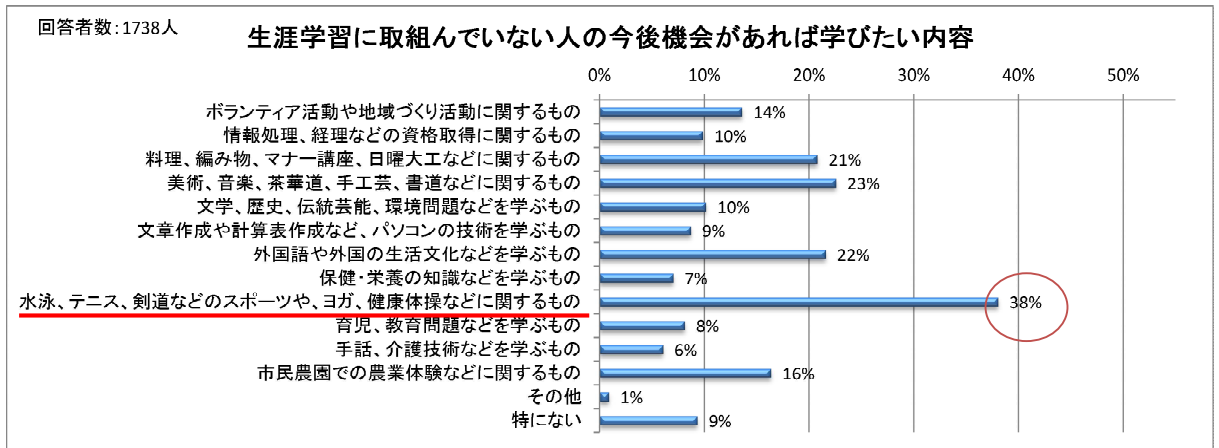
- 「いつでも、どこでも、だれでも」を合言葉に、地域社会で子どもから高齢者までだれもが様々なスポーツを気軽に楽しめる総合型地域スポーツクラブを推進します。地域での新たな交流・仲間づくりのきっかけとなり、だれもが元気なまちを目指します。



②日常生活におけるスポーツの推進

- 日頃の運動不足から、体力の低下や生活習慣病など、様々な健康障害が生じています。こうした問題の取組みとして、ウォーキングやジョギングなど身近に行うことができるスポーツを推進します。

「市民意識調査結果」



③健康づくりのための健康教育の推進

- 市民が健康で活力ある生活を送るために、関連する各種健康講座の充実を図るとともに、保健・医療・福祉機関との連携も密にし、総合的な推進体制の整備を進めます。

基本方針5 地域の交流を広げる

①地域を知る学習の推進

- 地域の自然や歴史、伝統文化などを活かすとともに、高齢者の長年培ってきた豊富な知識や経験を活かした学習を推進し、地域への関心を高めます。

市民意識調査結果

- 「地域の学習の促進」に関して、満足度が低く、かつ重要度が高い。

②地域芸能などの保存・伝承

- 地域に伝わる伝統芸能などの保存、後継者づくりを推進します。また、地域の伝統文化に関する学習機会の充実を図ります。



③地域ぐるみの子育て支援

- 地域ぐるみで子育て世代を支援していこうとする意識の啓発を進めるとともに、退職後世代をはじめとした地域の人の子育て支援に参加できるような仕組みづくりを進めます。



④大学を活かしたまちづくり・地域づくり

- 大学における研究や専門知識などの知的財産を地域へ還元し、地域全体の交流の活性化を図るため、市内及び周辺地域の大学と連携事業を推進します。

生涯学習を通じ、大学が地域へ社会貢献する場を積極的に提供するなど、地域全体が一体となったまちづくり・地域づくりを推進します。

市民意識調査結果

- 「地域の小・中学校、大学などとの連携」に関して、満足度が低く、かつ重要度が高い。

⑤民間の人材活用

- 地元企業と連携し、専門的知識・技術を有する民間の人材を活用した起業講座・教室を開催します。

基本方針6 情報を得やすくする

①一元化された情報の積極的な発信

- 様々な教育、学習情報や関連情報を総合的、体系的に整理した総合情報誌の発行など、市民の学習ニーズに応じた利用しやすい、わかりやすい一元化された情報提供を行います。さらには、まちづくり・地域づくりへ参加するための情報も盛り込みます。

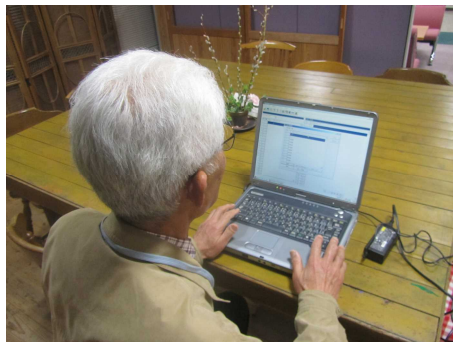
シンポジウムでの意見

- 市民が利用できる施設に関する情報共有が必要。一覧にしてほしい。
- 市内の全施設の情報を紙ベースで一覧化したものを作成する。
- 行政でリストをつくる。一元管理、利用目的や利用方法、管理者情報等をデータベース化。
- 定年退職時に、該当者へ生涯学習関係の情報冊子やボランティア団体リスト、シニアクラブなどまとめた情報を提供してはどうか。

②インターネットにおけるニューメディアの活用

- 情報の積極的発信及び市民とのコミュニケーションのため SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）などソーシャルメディアを活用し学習情報や団体情報を交換します。

※ソーシャルメディア：インターネットを利用して個人間のコミュニケーションを促進するサービスの総称



③図書資料に関するわかりやすい情報の提供

- 中央図書館において、利用者が求める情報の提供や資料調査の援助を行うレファレンスサービスの充実を図り、だれもが気軽に図書に関する相談や情報の取得ができるよう、支援体制の整備を図ります。



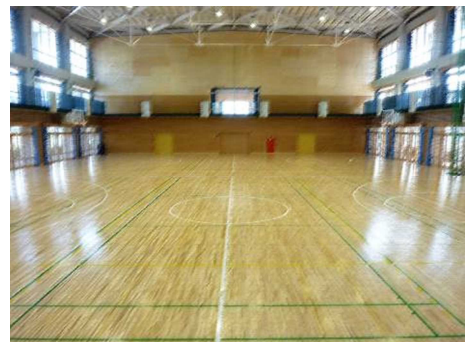
④バリアのない情報の提供

- 生涯学習に関する情報が得られにくい現状にある障がい者に対し、少しでも障壁がなくなるよう、それぞれの障がいに応じた適切な情報提供のあり方を検討します。

基本方針7 身近な場所で学びの場をつくる

①小・中学校施設の開放推進

- 文化活動やスポーツ等を行う生涯学習の場として、身近な施設である小・中学校施設を市民がより一層利用しやすくするため、学校開放を推進します。



シンポジウムでの意見

- 地域の保育園、小・中学校を空いている時に使用できると良い。地域で活用。

②既存施設の有効活用

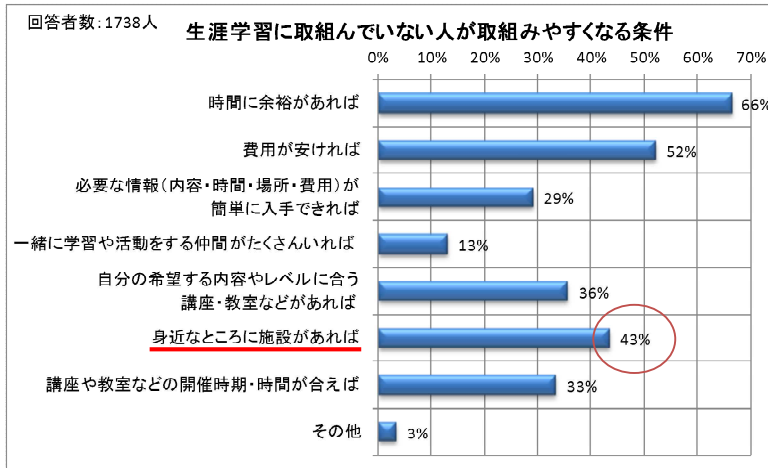
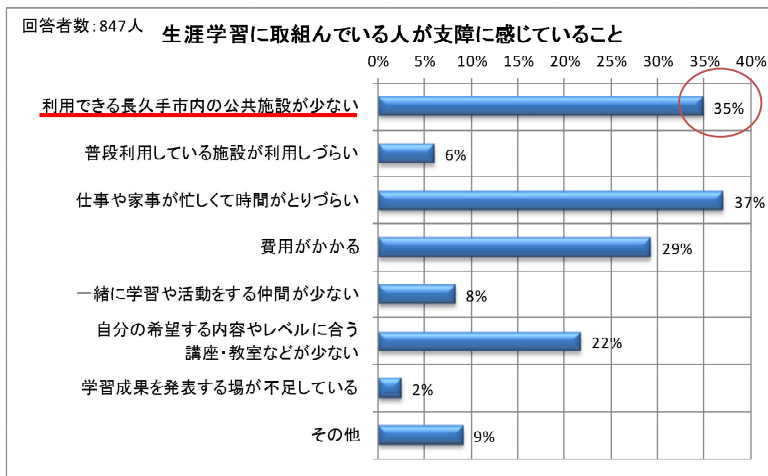
- 市内に点在する既存施設を有効に活用し、地域の身近な場所での生涯学習施設として利用できるよう推進することで、生涯学習の拠点、さらにはまちづくり・地域づくりへの参加の拠点として活用を進めます。

既存施設の利便性を向上しだれもが使いやすい状況とするため、例えば予約状況を一度に確認できるようにするなどの方策を検討します。

シンポジウムでの意見

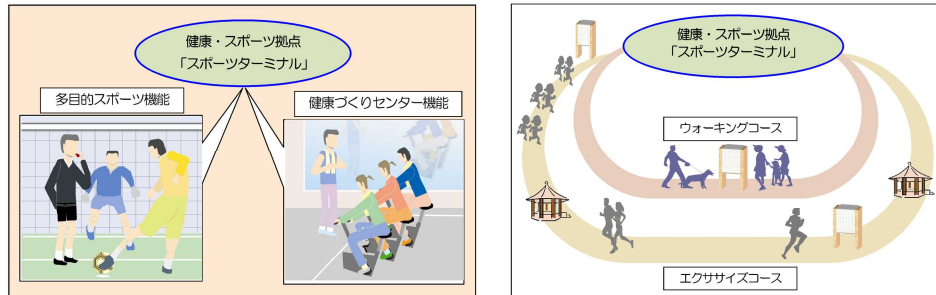
- 老人憩の家を高齢者だけではなく、一般にも開放してほしい。
- 集会所、老人憩の家の有効活用をするべき。
- 小学校区ごとなど、小エリアで多数の拠点があるといい。活動をいろんなところでできるといい。
- 小さな公民館が学校区に一つくらいあるとよい。
- 地域で自主管理する施設がたくさんある。市が利用状況等を把握して、有効に活用すべき。
- インターネットを活用して、市内の施設を一覧で表示し、利用予約や取消を行えるようになるといい。
- 施設検索システムを導入し、全施設の空き情報を提供する。

「市民意識調査結果」



③スポーツの拠点づくり

- 楽しく日々の健康のレベルアップを図る健康・スポーツ環境を創出するため、多様なスポーツを総合的に楽しめるような「総合スポーツ施設」を整備します。



(第5次長久手市総合計画 ながくてアクティブ構想)

④地域共生ステーションにおける生涯学習の場の提供

➤ 地域共生ステーションとは

市民、市民団体、事業者、行政などが、地域で気軽に集い、語らい、地域の様々な課題に対する取組みを行うための拠点として、既存の施設などを活用して、小学校区ごとに整備を検討している施設。



(西小校区共生ステーション「西 ふらっと小屋 (こやあ)」)

- この施設を生涯学習の場としても活用し、身近な場所での学習の場を提供することで、生涯学習活動を行う個人及び団体同士の交流を促進し、まちづくり・地域づくり活動につなげていきます。